

石神地区 村政懇談会

日 時：平成 27 年 8 月 25 日（火） 午後 7 時から 9 時分まで

場 所：石神コミュニティセンター 会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局長） 計 10 名

事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員 3 名） 計 6 名

自治会長（外宿一区，外宿二区，内宿一区，内宿二区，竹瓦区） 計 5 名

自治会連合会（会長） 計 1 名

参加者：外宿一区 12 名，外宿二区 5 名，内宿一区 23 名，内宿二区 13 名，

竹瓦区 6 名，その他 26 名 計 85 名

司会進行：竹瓦区自治会長 総計 108 名

《次第》

1. 開会
2. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
3. 地区自治会長あいさつ
4. 村長あいさつ並びに村政に関する説明・質疑応答
5. 平成 26 年度要望に関する進捗状況に関する説明
6. 自由質問
7. 閉会

《記録》

【4. 村長あいさつ並びに村政に関する説明・質疑応答】

内宿一区住民：年金機構で情報流出問題が起きている中で，マイナンバーカードを作ることに對して不安がある。その辺りをどう考えているか。

村長：新聞の情報で申し訳ないが，国会でも議論されていて，システムの安全性が確保されるまでは，年金基礎番号との連動は行わないとのことなので，今のところは大丈夫だと考えている。

【5. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答・質疑応答】

外宿二区住民：前谷の沈下対策は何度も行ったと聞いているが，今回の工事はどのような工法によるものか詳しく聞きたい。また地盤沈下したら経費の無駄になってしまうので，個人的には橋でも通してしまうのが良いと思う。

建設農政部長：これまでは，道路が下がった分，舗装を乗せていた。最初は良かったが乗せるとその重みで下がって行ってしまっていた。これまでの経過としては，平成 8 年から 25 年度までで 75 cm 沈下している。ボックスカルバートから役場方面へが一番沈下が酷い。地質調査の結果，総沈下量は 89 cm。このままでは，あと 14 cm 沈むこととなる。まったく沈下させないことは難しい。10 cm 程度

石神地区 村政懇談会

の沈下は許容できるので、40cmの盛土は可能。盛土は、EPS工法というもので、普通の土ではなく、発砲スチロールを使った軽量盛土を用いる。これまでの重いものを取って、軽いものに変えれば、理論的には下がらない。40cmかさ上げを計画しており、ボックスカルバートから両方へ2%の勾配を30m程付け、そこから少し上がってすり付けを行う。工法としては、普通の舗装の下に発砲スチロール関係の材料で1m30cm程度作り、構造を軽くして沈下を抑えるこれまでとは異なるもので、実績もある。まったく沈下が無くなるという訳ではないと思うので、補修をしながら進めていきたい。

竹瓦区住民：久慈川堤防の前川樋管の周囲が目測で80cm程沈下している。沈下した部分は、綿を当てた様なアスファルトを乗せてある。そこを車で50km/hで走行すると、5mくらい車が飛び上がり、事故の要因になる。徐行と描いてあるが暗いと見えない。人に頼らず設備を整えないと事故が起こる。何かあったら村での補償になってしまう。

建設農政部長：現地を見て調査する。

【6. 自由質問】

外宿一区住民：事前質問にある西原地区の大型車の進入禁止の標識と通学路については完了という報告を受けたのでお礼申し上げたい。しかし、まだ通学路で危険箇所がある。昨年度要望し、みちづくり検討委員会で改善するという回答を得たが、まだ改善されていない。場所は、原電道路を石神十字路から石神コミセン側へ500m向かうと急な坂でS字カーブになっている箇所である。見通しが悪く、児童の安全確保の観点からペイントをお願いしたい。併せて原電道路の歩道の拡張がされているが、マラソン道路までは計画はあるが、それ以降は通学者が少ないので6号国道までは計画がないと言われた。片側だけでも良いのでぜひ最後まで広げて欲しい。

建設農政部長：一点目のペイントについては今年度取り組む予定。昨年度要望があったから、交通量の調査を学校教育課と一緒に朝と夕方行った。ここ以外のS字カーブも含め、どのようなペイントが良いのか、地域の人と協議しながら取り組みたい。原電線の歩道の延長についても必要があるならば地域の人と話し合っただけで考えていきたい。

内宿一区住民：先程の沈下対策についてももう一度聞きたい。今回は軽量盛土で行うとのことだが、該当の場所は30mくらいN値ゼロだと聞いたことがある。地盤改良は考えていないのか。

建設農政部長：軽量盛土で行う。地盤改良やるとなると地下深くまでやらなければならない、相当な費用もかかることとなるので、全く沈下が無くなるということでは

石神地区 村政懇談会

ないが、費用対効果を考えて今回の工法にした。

内宿一区住民：差し支えなければ設計業者と施工業者を教えてください。

建設農政部長：水工エンジニアと佐藤工務店。特殊な工法なのでメーカー指導の下行われると思う。初めての工法なので万全を期して行いたい。

内宿一区住民：見学に行っても良いか。

建設農政部長：問題ない。

内宿一区住民：東海村が発足し60周年で村も円熟の領域に入るのかなと思う。これからは経済、スポーツ、文化などを並行に進め、バランスの取れた行政が必要になると思うが、特に文化スポーツについて教育長に伺いたい。

教育長：文化については、「(仮称)歴史と未来の交流館」の予定地として、消防署の脇に看板を立てさせてもらった。今日もエンジョイサマースクールで、子どもたちと発掘したものを触ったり、調べたりした。東海村には文化財もあり、稲村退三展も日曜からスタートし、なんでも鑑定団に出した硯もある。また、民具も集めているので、子どもたちだけでなく、大人も見られるよう展示していきたい。10月頃から中央公民館でも展示を予定しており、これからは文化財等を保存するだけでなく、村民に知って、見て、関わってもらいたい。そして、運営は65歳から75歳のアクティブシニアの元気なお年寄りに活躍してもらいたい。ステーションギャラリーも趣味だけではなく、お金を出してでも観たいというような専門的なものを展示していけるようにしたい。スポーツについては、子どもから大人までライフステージに合わせたスポーツ活動に取り組みたいと考えている。

村長：スポーツは健康づくりにもコミュニケーションをとるためにも大事である。平成31年には茨城国体があり、東海村はホッケーの会場になっているので、阿漕ヶ浦公園を整備する。ホッケーだけでなく、多目的に使えるように人工芝にするなどの整備もやっていく。翌年にはオリンピック、パラリンピックがある。皆オリンピックに注目しがちだが、パラリンピックも同時開催で、このような障がい者の方の国際的大会や県レベルでの催しもあるが、まだまだいまいち知られていない。障がい者が社会で活躍する所で、まだまだ就労の場もない。そんな中で文化やスポーツで能力のある方に活躍してもらうことも、今の社会の中で大切だと思う。そういうことも含め、スポーツには様々な切り口があるので力を入れていきたい。今、原子力発電が停止している中で、村内の旅館などは苦しい思いをしている。こういうところもスポーツの合宿などで新しいお客さんを見つけるという意味では、村がスポーツできる場所の整備を行うことなどで呼び込むことで、支援が出来るのではないかと思う。

内宿一区：「歴史と未来の交流館」に取り組むと聞いたが、世界に類をみない借金国である日本で、東海村の財政をどう考えているかが一点目の質問。また、210

石神地区 村政懇談会

0年には日本の人口は6,000万から5,000万人程度になると国が試算している中で、将来の東海村の人口ビジョンについてどのように考え、どのような考えの元に先程の発言があるのか。そして、12億円の建物のランニングコストをどう計算しているのか。これが二点目、三点目。四点目に、今後人口が減り、公共施設が余っていく中で、空き教室等を使ってはどうだろうか。十数億円の借金を誰が背負うのか、孫子の代まで残すのか。昔の石神小学校には校門に入ればすぐに発掘したものを触れられる機会があった。そういったことを考えてもらいたい。

村長公室長：財政について、東海村の財政力指数から見てもは県内でトップクラス。村の借金は一般会計で言うと50億円を切るくらい。村の財政調整基金は60億円、その他基金も入れるとは90億くらい貯金があり、当面は苦しい状況にはならないが、いつまでもそういう状況でいられるというわけではないので、経常経費等を切り詰めながら持続可能な財政運営を進めて行く。人口ビジョンについて、東海村の人口が今後どうなっていくかについてだが、国立社会保障・人口問題研究所という人口を研究している機関によれば、2040年の頃には、3万8400～3万8500人くらいになる推計をしている。県内でも増加するのは数市町村のみ。現在はこの推計から若干減っている。そのために、仕事のある、子育てしやすい、女性が住みやすいまちづくりなど、魅力のあるまちづくりを目指した総合戦略を考えている。

教育長：12億円は確かに大きい。箱物づくりといわれても仕方ない。ただし、歴史ある本村でなぜこれまで資料館ができなかったか、我々は中心地にそういったものを作り、子どもや村民に知ってもらう必要があると考えている。現在予定している場所だと、他の施設とつながっていける。人と人との交流が生まれる。そういう施設にして、様々なことを発信していく。ランニングコストはかかる。そこで、アクティブシニアに活躍してもらいコストを下げていきたい。

竹瓦区住民：村長の話の中であつた持続可能なまちづくりが進められていると思う。高校生の村への愛着度もすばらしい。その村に「東海村は日本一危険だ」という看板が出ているのはなぜなのか。本当に危険なのか。インターネットで「日本一危険な村」と調べてみると、下のほうに東海村が出てくる。その中にはなぜか総合計画の前期計画に携わった人の名前が出てくる。そんな人が日本一危険な村だと言うのはおかしい。あの看板はどうにかならないのか。いかに交流人口を増やすかという話をしている中で、東海村を訪れた人が看板を見て、魅力ある本村を勘違いしてもらっては困る。何とかして欲しい。

村長：昨日も同じ質問があり、議会でもあつた。残念な想いであるとしかいいえない。外形的な指導はできるが、内容については表現の自由が優先されるので、文言を直せとは言えない。お願いとして言っても、私の名前を出した瞬間に、なぜ役場がそのようなことができるのかと言われるのは目に見えているので動けない。ではどう

石神地区 村政懇談会

するかと言われれば、住民の意見としては言えるのではないかと考える。ただ、私に相談されて、そうしなさいと言うと語弊があるので、最終的には自由な住民の活動に任せるしかない。村は何もできないのが正直なところ。

外宿一区住民：今の看板に関して意見を申してから質問をする。私はこの村は日本で一番かは分からないが、原子力関連施設があるので、危険であることに間違いは無い。それでは、放射性廃棄物について質問する。低レベル廃棄物を村内で燃やしてしまおう、埋めてしまおうという考えがある。一月からJCOでは現に燃やしている。焼却炉も見てきたが、あんな簡単な焼却炉で大丈夫なのか。村で調べているのか。敷地内では測定しているが、榊橋のあたりではどうか、作物や土質の調査は東海村で調べているか。原子力機構の中に低レベル廃棄物を埋めようとしているが、どれくらいの量があり、大震災が起こった場合などの点検はどうするのか。

村民生活部長：JCOに関しては、TBPドテカンという、器具を洗うときに使用する油なのだが、非常に放射性物質が少ないものということで環境基準に基づいて焼却している。放射線については、月に1回程度、希望者は年3回測定しながら進めている。また、村内7箇所のモニタリングポストで測定している。原子力発電所では、廃炉に伴い金属片やコンクリートを敷地内に埋めたいということで計画している。量については1万6000トン埋めたいと国に申請している。東海村ではJAEAでJPDRというものを原子力発電所が廃棄物を埋める予定地の近くに平成8年から試験的に埋めており、報告書から安全性は確保されているとの事で、今度は原子力発電所が申請する。商業炉としては初めてなので、議会でもよく審議していただきたいとお願いしており、我々としても経緯を見守っていく。原子力発電所でも住民へ説明したいと言っているのだから、そういった場が設けられると思う。

外宿一区住民：モニタリングポストで測定しているというが、焼却前後で本当に変わっていないか。埋めてからの管理はどうなのか。埋めた後に大地震が起きた場合、安全性が確保されているかどうかの検査はどうやって行うのか。

村民生活部長：JCOでは正門のモニターで常に数値が確認できるようになっている。焼却後の数値の変化は今のところ確認されていない。埋め立てについてだが、大地震の想定も含め、規制庁で審査が行われていると思う。

外宿二区住民：「歴史と未来の交流館」是非作って欲しい。見える、触れる場所ができればと思う。現在イモのグッズがたくさんあるが、東海村はイモしかないと思われる。村長も走っていた勝田マラソンの日に、私はつくば市役所で、「水素社会の実現に向けて」というフォーラムに参加してきた。参加した理由は二つある。一つは、かつて燃料電池の開発に関わったときと比べどれくらい進化しているか確かめるため。もう一つは同じような科学のまちとしてつくばと東海村どれくらい差があるか興味があったため。つくば市役所には二輪の車やロボットが展示してあった。

石神地区 村政懇談会

東海村はイモだけではもったいない。反対もあるだろうが、村のPRキャラクターの中にイモプラスこれまで先端科学と向き合ってきたものをいれてはどうだろうか。

村長：イモゾーは観光の一環としてPRしている。これで興味を引きたい。村内外にアピールしたい。最先端の科学技術とはよく言ってきたが、原子力に絡む科学技術が民生のほうになかなかこないというのが現実。県にいたときからよくみてきたが、つくば市は特区ということでかなり進んでいる。筑波大学や産業技術総合研究所があったりと、多様な研究機関があるのでモノになりやすい。しかも、企業と研究機関と一緒に研究するので製品になりやすい。東海村には原子力関係やメーカーなど多様な研究機関や企業がはいっているが、やっとJ-PARCで企業が入ってきてても秘密に研究しているので表に出てこない。最終的な成果品はまだまだ見えてこない。環境モデル都市を目指すので配布資料にも書いたが、その中でCO₂の削減、低炭素社会を実現するためには太陽光発電、電気自動車だけでは駄目で、水素エネルギー社会も見据える。できるならバイオマス発電がよい。しかもそれは干しイモの残滓などを有効活用して、干しイモ農家が処分に困っている皮などを発電などに使ってまわしていければ、東海村の特徴になる。環境政策課のほうにも指示しており、内部でも色々と考えているのでもう少し待ってほしい。

内宿一区住民：私は自治会長はじめ、集会所管理者の方などの協力を得て、村からの委託事業である「いきがづくり支援事業楽々茶の間」をやっている。ちょうど10年が経過した。いつも感じるのは高齢者のパワー、特技のすばらしさ。そういった特技を活かすのに我々の事業は非常に適していると思う。今日もなごみ、舟石川コミセン、豊白集会所で活動してきたが、高齢者の方に喜んでもらっているし、会員も生きがいを感じている。このような事業をより多くの人に関わってもらうため、村に組織作りに関与してもらい、話し合いの場を設けてもらい、より多くの人に参加できるようにするため組織を作って進めてほしい。現在の「楽々茶の間」に新たに入るといのは難しい、仮に現在の組織が解散して名前が変わっても、学区単位で同じような活動ができるようお願いしてほしい。そして、まず第一に事業を一本化してほしい。同じような事業をいくつもの団体がやるのではなく一本化された組織で進められるようお願いしたい。

福祉部長：この前楽々茶の間の役員の皆さんと話し合う機会があり、色々意見を伺った。楽々茶の間の担当の方々も高齢になってきて大変だという話も伺っているし、村にも組織作りを一緒にやってほしいという声もあった。今月末にはまた、役員の皆さんと話し合う機会があるということで、あらためて話しを伺って村としての考え方をまとめていきたい。似たような事業があるのなら一本化も必要だが、それぞれ特徴を持った事業を住民が選択できるような事業を行っていくことも必要なので、その辺りを考えながら進めていく。

石神地区 村政懇談会

竹瓦区住民：米作りを20年やっている。20年前は米作りで生活でき、楽しかった。今はいくら作っても赤字。できるだけ原価を下げることをやっている。各支部長は勉強会を開いて、原価を下げる方法を模索している。例えば、苗の本数を少なくして、苗箱の購入数を減らす、粗く苗を植えることによって刈る時間を減らすというようなことを皆で考えている。また、そうやって作った米がおいしいか、食味会も行っている。しかし、なかなか成果が出てこない。そんな中で悪い話を聞いたのだが、稲作部会で村の補助金をきられ、今年はゼロだとのことだが、なぜだろうか。もう一点は、東海村で作ったおいしいお米を子ども達に食べてもらい、農業を引き継ごうと考えてもらうために仕掛け作りに取り組んでいるが、子どもたちが食べる米はビタミンB1がまぶしてある米を地域の米に混ぜないといけない。そういう食味が落ちた米を食べてみたい。

教育次長：給食に添加米を加えるとおいしさが落ちるといえるが、毎日食べている児童・生徒や保護者からはまずいという声は聞かない。東海の給食はおいしいという声が多い。ぜひ学校給食を食べてもらえればと思う。添加米については、どうしてもビタミンB1、B2が不足してしまうということで、文部科学省の摂取基準を満たすために0.3パーセント添加し、週3回の米飯給食で不足分を補っている。

教育長：東海村産のコシヒカリを生徒が食べている。日本人は米が主食で糖質を多く摂っているので、エネルギーに変えるためB1・B2が不足する。20名程度なら試食できるので、そのあとご意見をいただきたいと思う。

建設農政部長：部会に対する補助について、現在補助の見直しを行っている。これまでJA部会の育成の補助は村だけが行っていたが、JA部会なのでJAにも補助の負担をするべきではないかと協議したが、出せないということで、今年度はなくしたが、来年度は、改めて何らかの支援策を考えていきたい。

竹瓦区住民：自治会制度の現状はどうなっているか。

村民生活部長：今年の5月に「まちづくり協議会」ということで、地区自治会制度の見直しを提案したところで、混乱している方もいるのかと思う。今後の自治会は少子化など、人が少なくなっており、跡継ぎがいないなどの問題がでてきている状況である。今の自治会制度になって10年が経つが、今の自治会制度は、地方分権一括法という法律で、様々な権限が降りてきた際に、こういう形で自治会制度をやりませんかと押し付けるような形で始まった経緯がある。村の将来像を考えていく中で、本当にこのままの制度で良いかを各地区の方々に考えてもらいたい。今は混乱もあると思うが、秋ごろにはもう少し良い形を示せればと考えている。各地区の問題を解決できるような組織作りを考えていきたいのでよろしくお願ひしたい。

外宿一区：西原地区から6号国道に通じる道路3本が非常に狭い。先程回答があったが、土地の買収も絡むので難しいとのことだった。せめて一本だけでも太い道路

石神地区 村政懇談会

にして欲しい。役場のやりやすい道路でかまわないので将来に向けてお願いしたい。
以上